



青木の佐賀をゆく!!

インターン活動

①若者が政治に関心を持つてほしい
②若者と共に学ぶことにより、若者の考え方に触れることができ、若者の意見を政治に反映できる
 これまで多くのインターン生が青木事務所等で学び、その後は自治体職員や弁護士など多方面で活躍しています。これからも積極的にインターン生を受け入れ、学生の成長の一端となるよう、また若者の政治参加が進むよう尽力していきます。

インターン生受け入れの理由

**大学生インターンを
受け入れて
5年目になりました**



インターン活動内容

インターン期間中は、議員が普段どういった活動をしているのか、議会や政治にはどんな役割があるのか等を学びます。また、地域の行事への参加をはじめ、様々な年齢、職業の方々との関わりもあります。インターン期間中の後半には、学生が学び調査研究したことを政策にしてプレゼンする発表会が執り行われます。今回行われた佐賀・福岡エリアでの地方決勝大会では、受け入れた大学生が優勝することができました。



瀬口さん/このインターンシップで自分の知らなかった事、普段目向ける事が出来なかった佐賀の事を多く知ることが出来ました。また、仲間と共に課題に挑戦す

大学生の感想

尾上さん/インターンシップを通して私が福岡県から佐賀県に来て、佐賀の人の温かさや地域との繋がりを強く感じました。佐賀の方々と交流する中で、みなさんとも地元が大好きであると分かり、地元を愛される佐賀がもっと発展して欲しいと思っています。



インターン期間を終えて

学業やアルバイトで忙しい中、積極的に活動し学生のふたりは頑張りました。インターンシップ政策立案発表会では佐賀・福岡エリア地方決勝大会で佐賀県が構想中である県立大学について発表し、見事優勝を果たしました。思いもよらない発想とアイデアから学ぶことが沢山ありました。今後とも、若者の政治参加を全力で応援していきます。

県議会開会中

総務常任委員会での質疑

令和5年度最後の議会となる令和6年2月議会が開会しました。令和6年度当初予算案と令和5年度2月補正予算案が審議されました。



青木かずのり

●県議会議員/2期/自由民主党
 ●昭和50(1975)年生
 ●48歳

Q1 佐賀駐屯地(仮称)

昨年11月のオスプレイ墜落事故や先日の米軍ヘリ事前連絡無しでの佐賀空港滑走路低空飛行など懸案事項があるのも事実。今後とも、毅然とした態度で再発防止を訴え、訓練の練度は低下させることのないよう防衛省に提言するべきである。駐屯地整備の全体的なスケジュールを改めて伺う。

政策企画監

オスプレイ移駐に最低限必要な工事として、地盤改良造成工事、駐機場接続誘導路、格納庫、隊庁舎、管理棟、燃料タンクがあり、令和7年6月までの工期となる。その

Q2 キャッシュレス化の推進のための環境づくり

国内におけるキャッシュレス決済比率は年々増加しているが、先進諸国と比べるとまだまだ低い水準にある。県の取組みを伺う。

行政デジタル推進課長

全ての県民が関係する行政サービスのキャッシュレス化に引き続き取り組んでいく。

Q3 こどもデータサイエンス推進事業

県では令和6年度から、こどもデータサイエンス推進事業を立ち上げた。事業の内容や効果について伺う。

統計分析課長

小学校5年6年生及びその保護者を対象とし、親子で参加するデータサイエンス教室を開催し、データサイエンスを学びたいという子供を増やすきっかけづくりをしていきたい。

Q4 県立大学

昨年11月議会から県立大学については活発な議論が展開されてきている。少しづつ中身が見えてきたことで、慎重や反対の意見も出て来たのが事実。県民の様々な意見に耳を傾けながら、県としては丁寧な情報提供しつつ進めてほしい。

Q4-1 専門家チームの役割と権限

専門家チームの存在が表に出てきているが、大学設置に向けてチームの具体的な役割と権限について伺う。

政策企画監

県庁側と一緒に議論していく方々であり、大学設置方針に関してチームとして何らかの決定権限は無い。

Q4-2 設置場所

大学の全体的なイメージを考える為には設置場所は最も重要である。設置場所により地域のまちづくりや実際に通う学生たちに多大な影響を与える。設置場所の検討状況を伺う。

Q4-3 県民の理解

県立大学について当初賛成であった県民も慎重や反対へと変化される方が多い印象がある。このような厳しい県民の声に対する理解と対応はどうしていくのか伺う。

政策企画監

県立大学設置について、期待、懸念、双方あると思う。双方とも貴重な県民のご意見だと考え、情報収集や意見交換を進めていきたい。



積極的に議会での質問をしております!

